

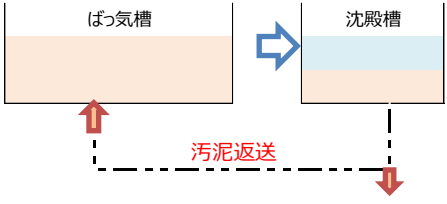


私たちは緊急出動ゼロを目指しています！

事業方針：丁寧な・熱心な作業も技術の一つです！

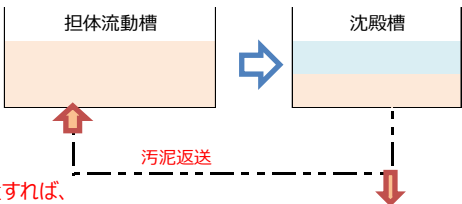
おさらい-② dsp処理槽の基本的な仕組みと「汚泥引抜不要システム」

① 活性汚泥法（汚泥引抜を要する）



汚泥引抜を要しますが、HVシステムを付加設置すれば、

② 担体流動槽方式（汚泥引抜き不要）

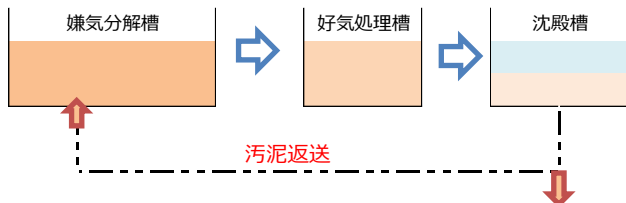


引き抜きは不要となります！

汚泥引抜不要 X

③ 嫌気分解槽+好気処理槽

ディスポーザー排水処理は最初に、ディスポーザーで粉砕した生ゴミを水に変える必要があります。そのため嫌気槽で粉砕生ゴミを嫌気分解し、水に変える省エネ方式も存在します。嫌気分解槽で粉砕生ゴミを可溶化するために、粉砕生ゴミは一定期間そこに滞留します。そのため好気槽に移行の排水は、濃度が低く放流水質は極めて安定します。嫌気槽に堆積する未溶解汚泥は、一定期間で引き抜く必要があります。引き抜きを怠れば好気槽の濃度が高くなり、放流水質の悪化を招きます。なお、未分解汚泥を引き抜かず汚泥分解する装置も開発されています。④に示します。



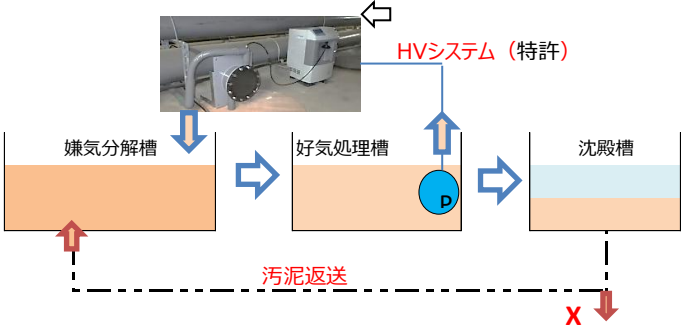
汚泥引抜が必須です

④ 嫌気分解槽+好気処理槽+dsp・HVシステム

嫌気処理槽を組み込んだ処理槽は 汚泥引抜が必須です。しかし、dsp・HVシステムを付加設置すれば 汚泥を引き抜く必要がなくなります。

DSP・ハイブリッドシステムは、従来の空気ばっ気方式に変わる新しい技術の処理方式です。酸素製造器+酸素溶解装置・組立の同システムは、既存の処理施設に簡単に付加設置することで浄化能力アップの効果を得られます。

酸素製造器は、空気中の酸素を90%以上取り込んで高濃度の酸素をつくります。その高濃度酸素は酸素溶解装置で汚水に90%以上溶解されます。高い溶存酸素濃度の汚水は酸素の気泡を抱えた状態でなく、分子状態で汚水に溶解存在し有機物の酸化反応が速くなり、嫌気汚泥を簡単に分解減容します。よって汚泥の引き抜きは無くなります。



X

水物語 No146 映画「おしよりん」で福井のモノづくり精神に感動です！

「おしよりん」とは、降り積もった雪が朝の冷え込みで表面が固く凍った状態を表す福井・言葉だそうです。田畑を覆いつくし何処までも真直ぐ歩ける状態を示します。これが目標に向き突き進む様を表現しています。3月連休の雨の日、プライムビデオで「映画おしよりん」を見ることとなりました。

映画の舞台は明治時代、福井県足羽郡麻生津村生野で、めがね産業の礎を築いた増永兄弟の挑戦と、その二人を支え続けた妻を描いた、無謀とも言える起業の物語でした。

当時の村人にとっては増永兄弟より、農閑期の新たな収入源となる計画を聞かされようと、未知の存在の「めがね」が如何に目の不自由な人達にとって、光明を見出す商品であるか分かりようがありませんでした。

しかし、友人の学校嫌いな小学生の子供に眼鏡をかせさせたことで……。黒板の字が見えなくて不登校と分かりました。このことが「めがね」挑戦の引き金となり、苦難の歩みが始まりました。資金不足が祟り田畑を売り払い、それでも銀行に見放され倒産寸前まで何度も追い詰められました。

掛ければ一瞬にして、世界の見え方だけでなく人生も変えてしまう眼鏡……。しかし、なかなか思うように売れません…。ある日、電柱のポスター「全国眼鏡品評大会」を見て、身体の一部になるような眼鏡づくりを決断し、大会に出品しました。

結果はドラマです……。見事に優勝を果たしました。正に眼鏡の聖地・鯖江のスタートです。原作は2016年 作家 藤岡陽子さん 私にとって、1993年～1998年 松下との共同開発「ディスポーザーシステム」と重なる場面が幾度かあり、感動で胸が熱くなりました。(H・I)



特許 クリーンテックサービス東京は「dsp・HVシステム」「油脂ゼロポンプ槽」の2つの特許でCo2削減しています！